



ニュージーランド北海道酪農協力プロジェクト ＜改善策実施初年度で収益の改善も明らかに＞

プロジェクトがスタートしてから、夏の放牧も3シーズンがほぼ終えようとしている中、今年行われた改善策の実施から得られたプロジェクト酪農家の財務データとフィードバックは大変満足 of いく結果でした。

2014年のプロジェクトの開始時に、酪農家は自給飼料と労働時間の改善を通して持続可能な酪農と収益の向上を望んでいました。

事前調査の結果では放牧草と牧草サイレージの品質は、ニュージーランドと比較して全体的に低く、中にはかなり品質の落ちるものもありました。しかし牧草管理の改善策の取り組みを実施したことにより、多くのプロジェクト酪農家の放牧草の品質（TDN%、CP%、NDF%）はニュージーランドのレベルに近づいたものも確認することができました。

放牧の開始時期も4月後半か遅くとも5月初旬には始め、一番草も6月初旬に行うようになり、CP%とNDF%もかなり改善されています。

夏の放牧時期に品質の良い牧草を維持するには、放牧圧をかけることが必要ですが、十分な適正頭数を確保することは容易ではありません。乾乳牛や子牛を放牧するのは放牧圧をかける一つの手段になりますし、牛の健康、家畜福祉的にも良いことです。他に、電気柵で放牧地を小さく区切る方法もあります。しかし、牛は出穂して品質が低下した牧草や糞尿の近辺の牧草は食べ残すと言う問題が残ります。プロジェクト酪農家が採用した新しい試みは、その部分の牧草を放牧直前に、刈り取ってしまうことです。草丈が均一になれば、牛もその部分をいくらか食べるようになります。ニュージーランドではこの作業をトッピングと言っていますが、これを行うことにより緑葉の成長を促し、マメ科の植物にもより太陽の光が当たるようになり成長を促進します。マメ科植物は栄養価が高い飼料になり、この作業はとても効果の高い方法です。

毎週牧草の成長を測定していれば、酪農家はどの牧区の草が伸びすぎてしまうか予測することができるようになります。そのような牧区は、1週間ほどそのままにし、サイレージ生産に回します。しかし、採草地と放牧地がはっきり分かれていると、このような柔軟な対応が取れません。

今年天塩の酪農家は、9月4日までに3番草をカットし、天候が許せば10月中に4番草をカットする予定です。この酪農家は昨年余った高品質サイレージを近所の酪農家に売ったところ、

その酪農家が作った通常品のサイレージと比べて嗜好性をはるかに良く大変喜ばれたようです。

プロジェクト酪農家の所得に関しては、各酪農家により程度の差はあるものの、2016年度の所得が2百万円程度から5.8百万円程度に増えています。この中には2%の乳価値上げや牛の個体販売価格上昇による収益増も含まれています。しかし、放牧によって、夏の期間の補助飼料の大幅な削減も収益増に貢献しています。別海の酪農家は最も収益の伸びが少なかったのですが、これはまだ12時間放牧の為です。今年は24時間放牧に変え、牧草の状態も大変良くなり、酪農家自身の生活も楽になっています。

利益は夏の放牧期間に高品質の牧草を食べさせ、配合飼料とサイレージの給餌量を減らすことで可能です。又冬の期間に給餌されるサイレージの品質が高ければ、生乳生産量を維持しながら給餌量を減らすことも可能です。

最も興味深いことは、放牧中の生乳生産量はほとんど変わりませんが、費用はかなり減少していることです。牛の健康状態、特に乳房炎、歩行障害は大幅に改善されています。もし、放牧草又はサイレージのTDNが例えば60%から66%に上がると、同じ生乳生産量を維持しながら、給餌量は20%減らすことができます。高品質のサイレージを20%節約できたら酪農家は大喜びです。これは、放牧酪農家だけでなく、舎飼い酪農家にとっても応用できます。

2017年の財務データと農場運営の結果は来年7月にこのプロジェクトの最終報告と言う形で発表されます。

本件に関するお問い合わせ先：

フォンテラジャパン株式会社
北海道プロジェクト担当 諏訪 茂
電話：03 6737 1809（携帯 090-6024-8930）
Email：stan.suwa@fonterra.com

